

# 石狩の農業 (戦前編)

石狩で最初に開拓が始まったのは生振と花畔で、明治4（1871）年のことです。開拓当初は、森林を伐採したり燃やしたりして耕地を開き、ソバ、粟、燕麦、バレイショ、大豆、小豆、小麦、トウモロコシなどを作っていました。

明治7（1884）年ごろからは養蚕も行われ、とくに天然の桑が多かった花畔村で盛んでした。明治25（1892）年には、花畔村で、北海道で初めての除虫菊栽培が始められています。そのほか、明治末から大正期にかけての重要な作物として、亜麻と燕麦があげられます。これは日露戦争、第一次世界大戦による需要増に応えたもので、とくに燕麦は軍馬の飼料であったため、陸軍が特約して購入しました。また、明治30年代には、樽川村や花畔村で、肥料と現金収入を得るため酪農が行われるようになり、明治末から大正期にかけて、樽川村や花畔村は道内酪農の中心地でした。

しかし、石狩は、もともと地力の乏しい土地が多いうえ、冷害や水害等の災害が多く、農産物の価格も不安定でした。この時代、石狩の農業は大変厳しい状況にありました。

大正末期から昭和初期になると、周辺の市町村では米作りが盛んになってきたこともあり、石狩でも米作りが真剣に考えられるようになっていきました。そして、昭和2（1927）年に、花畔の農民達が、北海道からの補助も認められないなか、80町歩（ha）の水田を自費で作りました。これが、第二次世界大戦後に全町に水田が広がる礎となったのです。

（石井滋朗）

## ★農家戸数及び耕地面積の変化

	農家戸数 (戸) (うち自作農)	耕地面積 (町歩)
大正7年	894 (397)	田73、畑7,108
昭和5年	628 (191)	—
昭和10年	693 (179)	田795、畑4,510

（石狩町誌中巻1、2より）

- (1) 石狩町（1985）石狩町誌／中1．石狩市。
- (2) 石狩町（1991）石狩町誌／中2．石狩市。
- (3) 石狩市教育委員会 文化財・博物館開設準備室（2001）ふるさといしかり．石狩市教育委員会。
- (4) 河野本道（2003）石狩市史／石狩市年表．石狩市。